

成果指標				
成果指標	利用件数			
指標設定の考え方	適正な施設管理により、利用件数の増減が考えられる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標26年度
目 標	600	600	600	600
実 績	548	499	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	建設時点より年数が経過しており、今後計画的に維持改修を行う必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設の効率的な運営管理により、利用者の利便性向上、地域交流の場の提供に貢献しているが、施設の老朽化が少しずつ進んでおり、今後、計画的な施設修繕が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題